

南アフリカの日本語教育事情

スピノラ宏美

Japanese Language Club South Africa
ステレンボッシュ大学日本センター
日本語講師

1 はじめに

アフリカ大陸最南端に位置する南アフリカ共和国（以下、南アフリカ）における 2025 年現在の日本語教育について報告する。著者は 2000 年から 4 年間台湾で教鞭をとった後、2004 年から南アフリカでフリーランスで日本語を教えている。

2 南アフリカ共和国

南アフリカの面積は日本の約 3 倍の 122 万km²、人口は増加傾向にあり日本の 2 分の 1 弱の 6300 万人である。在留邦人数は 939 人、日本人永住者数は 241 人でどちらもアフリカ第 1 位（2024 年外務省海外在留邦人数調査統計）である。そして、日本企業数は 255 社でこちらもアフリカ第 1 位（2023 年外務省海外進出日系企業拠点数）である。日本と南アフリカの 2 か国関係は古く、日本は 1910 年に名誉領事をケープタウンに置いた後、1918 年にアフリカ大陸初の公館となる在ケープタウン領事館を開設し、今年国交 115 年を迎えた。アパルトヘイト政策下でも日本が南アフリカの貿易相手国として重要な位置にあったことから日本人は「名誉白人」とされ、当時もかなりの数の永住者がいた。現在の南アフリカでは生け花をはじめとする日本伝統文化、空手、柔道だけではなく弓道、居合道、琉球古武術まで様々な日本武術、そしてコスプレなどのポップカルチャーなど日本文化愛好者も多い。

3 日本語教育史

アパルトヘイト政策下の南アフリカで日本語教育が行われていたという記録はない。2001 年に南アフリカ初の日本語学校「ケープタウン日本語会」が開校

した。様々なレベルの学習者に小クラスでの日本語教育を提供した「日本語会」は開校者の病死により 2019 年に閉校した。この間にもヨハネスブルグのヴィットウォータースランド大学、ポートエリザベスのネルソン・マンデラ大学で一般向けの日本語講座が開講したがどちらも受講者が集まらなかったり、教師が見つからないなどの理由でどちらも閉講された。

日本語教育史

History of Japanese Language Education in SA

- ~1994 新政権誕生まで行われていない(?)
[No Japanese language education in South Africa\(?\)](#)
- 2001-2019 ケープタウン日本語会 [Cape Town Nihongo kai](#)
- 2003-2012 ヴィットウォータースランド大学 [University of the Witwatersrand](#)
- 2004-2005 ネルソンマンデラ大学 [Nelson Mandela University](#)
- 2013-2021 プレトリア大学日本語講座(プレ大日本研究センター)
[Japanese Language course \(Centre for Japanese Studies at University of Pretoria\)](#)
- 2014- 日本語能力試験 [JLPT](#)
- 2020- 日本語の庭 [Nihongo no Niwa](#)
- **Japanese Language Club South Africa**
- 2022- ステレンボッシュ大学日本センター
[Japanese Language course \(Stellenbosch University Japan Centre\)](#)

3

2010 年、国交樹立 100 年を記念してサブサハラ・アフリカ初の日本研究センターがプレトリア大学内に開設され、2013 年、日本国大使館の力添えで日本研究センター内に一般向け初級日本語講座が開講した(筆者が担当)。平日夜 2 時間計 20 時間の初級講座は 2021 年のプレトリア大学日本研究センターの閉所まで計 15 回開講された。いずれも 15~20 人が受講し、ヨハネスブルグ、プレトリアを有するハウテン州における日本語教育の普及に貢献できたと思われる。

2014 年には日本語能力試験が始まり、毎年 12 月ヨハネスブルグで開催されている。今年 2025 年の試験には過去最高の 84 件の申し込みがあった(2025 年 8 月 31 日願書締め切り)。

2020 年には前述の「ケープタウン日本語会」のチューター、今回の会議に参加したジェイソン先生が開校した日本語学校「日本語の庭」、元 JET プログラム参加者が開設した「Japanese Language Club South Africa」が開校しどちらもオンラインクラスを提供することで南アフリカ全土に日本語教育を提供できるようになった。

また、2022 年にはステレンボッシュ大学日本センターが開校され、こちらでも一般向け 3 つのレベルの日本語講座が開かれている。

4 日本語教育を行っている教育機関

南アフリカには26の国公立大学、その他の私立高等教育機関のいずれでも日本語教育は行われていない。現在日本語教育を行っている教育機関は5つある。



これらの教育機関はいずれも新型コロナウイルス感染症が発生した2020年以降に開校したもので現在もオンラインレッスンを中心に日本語教育を提供している。

▶ Nihongo no Niwa 日本語の庭

今回参加したジェyson先生が開校した日本語学校。様々なレベルの少人数のオンラインレッスン、対面レッスンのほかに日本文化イベントも開催している。

▶ Japanese Language Club South Africa

元 JET プログラム参加者が開校したオンライン日本語学校。1クラス20人を上限としたN3,N4,N5オンラインコース、キッズコース、個人レッスンを提供している。日本語クラスだけでなく日本文化イベントや漫画コースも開催している。

▶ Fluent Panda

元 JET プログラム参加者が開校したオンライン語学学校。20の言語の一つとしてオンラインレッスンを提供している。

▶ Stellenbosch University Japan Centre ステレンボッシュ大学日本センター

Japanese Language Club South Africa が一般向け N3,N4,N5 オンラインコースを提供している。N5 コースは毎回 30 人強の受講者がいる。今年のコースには日本在住の JET プログラム参加者も数人受講している。

▶ Language School in Durban

ダーバンにあるオンラインレッスンを提供している語学学校で日本語教育が行われている。

この他にも各地で個人レッスンが行われている。

5 学習者

学習者の年齢層は子どもから高齢者まで幅広く、日本に興味のある人がお金を払って授業をとっているので、教師としては教えやすい。年齢と目的に合わせて、キッズコースや会話に特化したコースも始まっている。

学習者数	number of students
<u>Japanese Language Club South Africa /</u> <u>ステレンボッシュ大学日本センター</u>	
N5 コース・40 時間(1月クラス)	18 人
N5 コース・40 時間(7月クラス)	50 人
N5 コース・50 時間	38 人
N4 コース・80 時間	17 人
N4 コース・80 時間	7 人
N3 コース・80 時間	3 人

これは筆者が担当しているオンラインコースの受講者数である。平日夜または土曜日のコースであるため、受講者の年齢、職業も様々であり南アフリカ全土からの受講者がいる。7 月コースは 50 人もの受講希望者がいたため、2 クラスにわけて授業を行っている。

6 学習動機の変遷

これは筆者が南アフリカで教え始めた 2004 年からの筆者が教えた学習者の学習動機の変遷である。

学習動機の変遷 Transition of motivation	
2000 年代前半 -mid 2000s	伝統文化 traditional culture
2000 年代後半 Mid 2000s-	ポップカルチャー pop culture
2010 年サッカー W 杯～ After 2010 soccer World Cup	日本旅行、JET プログラム visit Japan, JET program
2013 年～ 2013-	日本留学、日本語能力試験 study in Japan, JLPT

2000 年代前半は生け花や武道などの伝統文化が学習動機であった。2000 年代後半にアニメ、コスプレなどのポップカルチャーが知られるようになり、「OTAKU」という月刊誌も発行され、いくつかの子ども向けアニメも公共テレビ局で放送された。その頃の学習動機のほとんどがポップカルチャーであった。2010 年にはサッカー W 杯が南アフリカで開催され、日本チームもベスト 16 まで勝ち進んだことで、JAPAN という国名が知られることになった。またこの頃から日本大使館が JET プログラムの広報に力を入れたことで、以前は誰も知らなかった JET プログラムが学習動機にあがるようになった。プレトリア大学日本研究センター開設以降は日本留学そして日本語能力試験をあげる学習者も増加した。その後、2015 年ラグビー W 杯で弱小日本チームが世界トップクラスの南アフリカに勝利したことで日本は広く知られるようになり、日本旅行がそれまで以上に学習動機にあげられるようになった。

7 日本語教師数

現在、日本語教師会はないが、日本人 8 人、南アフリカ人 2 人が教えている。南アフリカ人の 2 人はケープタウン日本語会のジェイソン先生と元 JET プログラム参加者である。日本語教育を行っている教育機関は就労ビザを申請できる資格がないため、日本人の 8 人は永住者か留学生であり、全員が日本語教育、外国語教育に関して知識があるかどうかは不明である。

8 課題と取り組み

学習者の増加に伴い、これから教師不足が予想される。元 JET プログラム参加者や上級レベルの学習者などから南アフリカ人教師の発掘が必要である。そして新しい教師の研修の場、現在教えている教師同士が情報交換できる場＝教師会を設立することが急務である。また、日頃オンラインで学習している学習者同士の交流の場（オンライン、対面）を作ることも重要である。

それに加え、南アフリカ初のスピーチコンテストの開催、そして現在年 1 回 12 月にヨハネスブルグで行っている日本語能力試験の年 2 回開催（ステレンボッシュ 7 月開催）をそれぞれステレンボッシュ大学日本センター、日本国大使館の協力を仰ぎながら目指したいと思う。